

1. 略歴

- 2003年3月 東京大学文学部思想文化学科（美学芸術学専修課程）卒業
2003年4月 同大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻（美学芸術学専門分野）修士課程入学
2006年3月 同修士課程修了、修士（文学）取得
2006年4月 同博士課程進学
2010年3月 同博士課程単位取得退学
2010年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（～2013年3月）
2013年10月 博士（文学）取得（東京大学）
2016年4月 東京大学大学院人文社会系研究科（美学芸術学研究室）助教（～2017年3月）
2017年4月 上智大学文学部哲学科 助教（～2021年3月）
2021年4月 上智大学文学部哲学科 准教授（～2024年3月）
2024年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

(1) 著書（単著）

『シュライアマハーの解釈学——近代解釈学の成立史』、御茶の水書房、2016.2、487p.

(2) 著書（共著）

樋笠勝士編『フィクションの哲学——詩学的虚構論と複数世界論のキアスム』、月曜社、2022.3、344p. [執筆担当「〈創造されなかった世界〉の論理——ライプニッツの可能世界論の前史として」、pp. 119-141]

(3) 論文（単著）

「彫刻制作に於ける現実化の二重性の問題——リルケの『ロダン論』に於ける〈きまり（Gesetz）〉の問題に即して」、美学会若手研究者フォーラム実行委員会編『第55回美学会全国大会若手研究者フォーラム論文集』、2005.5、pp. 43-53

「シュライアマハー解釈学に対する〈ロマン主義的評価〉の論理と論点——ディルタイとガダマーによる議論に即して」、東京大学美学芸術学研究室編『美学芸術学研究』第26号、2008.3、pp. 78-102

「シュライアマハーの〈図式論〉と〈言語の二重性〉——カントとシェリングの図式論との比較において」、美学会編『美学』第60巻第1号（第234号）、2009.6、pp. 44-57

「Fr・アストとFr・シュライアマハーの解釈学における追構成（Nachkonstruktion）の手法——個体と全体の論理をめぐる」、日本シェリング協会編『シェリング年報』第17号、2009.9、pp. 119-133

「シュライアマハーの解釈学における予見（Divination）の方法——特にFr・A・ヴォルフの本文批判（Textkritik）からの歴史的系譜に即して」、日本18世紀学会編『日本18世紀学会年報』第25号、2010.6、pp. 31-45

「解釈における歴史意識——テンネマンとシュライアマハーによるプラトン解釈をめぐる」、東京大学美学芸術学研究室編『美学芸術学研究』第29巻、2011.3、pp. 1-41

「近世・近代ドイツの解釈学における意味の二分法の歴史的展開——ダンハウアーからシュライアマハーにかけて」、日本18世紀学会編『日本18世紀学会年報』第28号、2013.6、pp. 29-43

「シュライアマハーの解釈学における〈よりよき理解〉——「無意識」概念に即して」、美学芸術学会編『美学芸術学』第29号、2014.3、pp. 35-54

「芸術における必然と偶然」、国士舘大学哲学会編『国士舘哲学』第18号、2014.3、pp. 56-86

「解釈学と論理学——ダンハウアーからシュライアマハーまで」、美学会編『美学』第65巻第1号（第244号）、2014.6、pp. 1-12

「理性と歴史」、『nyx（ニュクス）』第2号、堀之内出版、2015.12、pp. 50-67

「バウムガルテンの美学における蓋然性と真実らしさ——七世紀中葉以降の真理の拡張と美学の成立」、美学会編『美学』第66巻第2号（通巻247号）、2015.12、pp. 1-12

「バウムガルテンの美学と形而上学における虚構の真理——可能的なものの存在論をめぐる」、美学会編『美学』第68巻第1号（通巻250号）、2017.6、pp. 1-12

「フィクションの受容可能性におけるパラダイム変化 真理の一致説から整合説へ——古代から近代にかけての「真実らしさ」概念に即して」、日本シェリング協会編『シェリング年報』第25号、2017.7、pp. 60-71

「オットーの聖なるものと魂の根底 (Fundus Animae, Seelengrund) ——ドイツ神秘主義と近代認識論 (心理学・論理学・美学) の系譜から」、『nyx (ニユクス)』第5号、堀之内出版、2018.9、pp. 50-65

「論理学における心理主義と美学の成立——六世紀から一八世紀中葉にいたる心理主義的論理学の展開にそくして」、美学会編『美学』第70号第2号 (通巻255号)、2019.12、pp. 13-24

レトリカル・ディアレクティック
「弁論術的弁証術 ——ルネサンスにおける弁論術と弁証術の統合とその歴史的な位置づけ」、上智大学哲学会編『哲学論集』第49号、2020.10、pp. 35-54

「バウムガルテンの感性的認識 (cognitio sensitiva) ——「上位認識能力/下位認識能力」およびヴォルフからの系譜に即して」、上智大学哲学科編『哲学科紀要』第47号、2021.3、pp. 61-101

「批判期カントの構想力概念再考——心理学、超越論、天才論の系譜から」、日本フィヒテ協会編『フィヒテ研究』第30号、2022.11、pp. 23-38

「ブルーメンベルクの美学における「現実性概念」——フィクショナルなものの形而上学・様相存在論」、上智大学哲学科編『哲学科紀要』第49号、2023.3、pp. 59-89

(4) 翻訳論文 (単独訳)

ゲルノート・ペーメ著、桑原俊介訳「図像の現実性とその使用」、東京大学美学芸術学研究室編『美学芸術学研究』第25巻、2007.3、pp. 294-315

エーバーハルト・オルトランド著、桑原俊介訳「謎めいた性格・註釈・批評——アドルノにおける芸術作品と美的反省」、東京大学美学芸術学研究室編『美学芸術学研究』第29巻、2011.3、pp. 217-242

グンター・ゲバウアー著、桑原俊介訳「共感と比喩——感情をめぐる言語の問題」、東京大学美学芸術学研究室編『美学芸術学研究』第30巻、2012.3、pp. 323-341

フリードリヒ・フォルホルト著、桑原俊介訳「ゴットホルト・エフライム・レッシングの『ラオコーン』——ドイツにおける美学の始まりに寄せて」、東京大学美学芸術学研究室編『美学芸術学研究』第32巻、2014.3、pp. 153-169

(5) 項目執筆等

「作品美学・受容美学」、美学会編『美学の事典』、丸善出版、2020.12、pp. 22-23

「文献学」、日本18世紀学会 啓蒙思想の百科事典編集委員会編『啓蒙思想の百科事典』、丸善出版、2023.1、pp. 416-417

(6) 書評

Marianne Schröter, *Aufklärung durch Historisierung: Johann Salomo Semlers Hermeneutik des Christentums*. (Berlin/Boston: Walter de Gruyter 2012)、日本18世紀学会編『日本18世紀学会年報』第29号、2014.6、pp. 100-101

井奥陽子『バウムガルテンの美学——図像と認識の修辞学』(慶應義塾大学出版会、2020年)、美学会編『美学』第73巻第1号 (通巻260号)、2022.6、pp. 88-93

クリストフ・メンケ『力——美的人間学の根本概念』(杉山卓史・中村徳仁・吉田敬介訳、人文書院、2022年)、日本18世紀学会編『日本18世紀学会年報』第38号、2023.6、pp. 85-86

(7) 展評

「うつすものをうつす《ウィリアム エグルストン：パリ - 京都 レビュー》」、『展覧会へ行こう!』(ウェブメディア)、2010.7.28、4,847文字 (<http://www.55museum.com/?p=6634>)

「自然観/自然感を再定義する《ネイチャー・センス展 レビュー》」、『展覧会へ行こう!』(ウェブメディア)、2010.8.30、6,480文字 (<http://www.55museum.com/?p=7103>)

「場所の感覚/存在の感覚《アメリカ抽象絵画の巨匠 バーネット・ニューマン レビュー》」、『展覧会へ行こう!』(ウェブメディア)、2010.9.28、4,908文字 (<http://www.55museum.com/?p=7758>)

「《東京アートミーティング トランスフォーメーション レビュー》」、『展覧会へ行こう!』(ウェブメディア)、2010.11.29、5,228文字 (<http://www.55museum.com/?p=8880>)

「失われた記憶/埋め込まれた記憶 《小谷元彦展 レビュー》」、『展覧会へ行こう!』(ウェブメディア)、2010.12.28、4,923文字 (<http://www.55museum.com/?p=9361>)

「翻弄するもの/翻弄されるもの 《高嶺格：となくてよくみえない レビュー》」、『展覧会へ行こう!』(ウェブメディア)、2011.2.27、5,965文字 (<http://www.55museum.com/?p=10088>)

「世界の深さ/人間の深さ 《MOT アニュアル 2011 Nearest Faraway | 世界の深さのはかり方 レビュー》」、『展覧会へ行こう!』(ウェブメディア)、2011.3.28、5,109文字 (<http://www.55museum.com/?p=10537>)

「フランス式の窓/なりたての未亡人 《フレンチ・ウィンドウ展 レビュー》」、『展覧会へ行こう!』(ウェブメディア)、2011.4.29、5,190文字 (<http://www.55museum.com/?p=11037>)

「二重化の二重化／総合《名和晃平—シンセシス レビュー》」、『展覧会へ行こう！』（ウェブメディア）、2011.7.28、4,944文字（<http://www.55museum.com/?p=12532>）

(8) 口頭発表

- 「彫刻に於ける現実化の二重性の問題——リルケの『ロダン論』に於ける〈きまり (Gesetz)〉の問題に即して」、第55回美学会全国大会若手フォーラム、京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパス、京都、2004.10.10
- 「言語の個性と普遍性——シュライアマハーの図式論を巡って」、2007年度第5回美学会東部会例会、東京大学本郷キャンパス、東京、2008.3.8
- 「Fr・アストとFr・シュライアマハーの解釈学における「追構成 (Nachkonstruktion) の手法——個体と全体の論理をめぐって」、日本シェリング協会第17回大会、弘前大学文京町地区キャンパス、青森、2008.10.5
- 「シュライアマハー解釈学における予見 (Divination) の方法の歴史的系譜——Fr・A・ヴォルフおよびFr・シュレーゲルという二人の Kritiker の視点から」、日本18世紀学会第31回全国大会、多摩美術大学八王子キャンパス、東京、2009.6.20
- 「シュライアマハー解釈学における「技術的 (technisch) 解釈」、第62回美学会全国大会、東北大学川内文系キャンパス、宮城、2011.10.15
- 「シュライアマハーの美学における「感情 (Gefühl) 概念——神学や弁証法におけるそれとの関係で」、日本基督教会第59回学術大会、日本組織神学会・日本シュライアマハー協会コラボレーション企画、シンポジウム「シュライアマハーのアクチュアリティ」、日本組織神学会・日本シュライアマハー協会共催、同志社大学室町キャンパス、京都、2011.11.7
- 「近世・近代ドイツの聖書解釈学における「著者の意図」の契機——聖書の意味の分類法の歴史的変遷にそくして」、日本18世紀学会第34回全国大会、名古屋大学東山キャンパス、愛知、2012.6.24
- 「解釈学と論理学——ダンハウアーからシュライアマハーまで」、第64回美学会全国大会、東京藝術大学上野キャンパス、東京、2013.10.13
- 「シュライアマハーの解釈学における〈よりよき理解〉——「無意識」の概念に即して」、美学芸術学会第16回大会、同志社大学今出川キャンパス、京都、2013.10.26
- 「バウムガルテンの美学における蓋然性と真実らしさ——17世紀中葉以降の学問の拡張と美学の成立条件」第65回美学会全国大会、九州大学箱崎キャンパス文系地区、福岡、2014.10.12
- 「詩における真理・真実らしさ・可能性——アリストテレス、フランス古典主義演劇論、ゴットシェート、スイス派をめぐって」、科学研究費基盤研究 (A) 「啓蒙期におけるフィクション使用の多様な形態と機能に関する総合的研究」、〈啓蒙とフィクション〉研究会、東京大学駒場キャンパス、東京、2015.2.28
- 「フィクションの受容可能性におけるパラダイムの変化——近世から近代にかけての「整合性」と「真実らしさ」に即して」、クロス討論II「フィクション理論の諸問題——意図と真実らしさ」、日本シェリング協会第25回大会、京都産業大学、京都、2016.7.3
- 「バウムガルテンの美的真理と形而上学的真理——可能的なものの存在論をめぐって」、第67回美学会全国大会、同志社大学新町キャンパス、京都、2016.10.6
- 「美と善」、シンポジウムに提題者として参加、「a workshop 失われた領域を求めて Art×Science×Philosophy」、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli IPMU)、多摩六都科学館、東京、2017.2.22
- 「美について」、ワークショップに提題者として参加、「Kavli IPMU AIR プログラムを考える2：真×善×美から考える科学の基底と美術の基底」、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli IPMU)、多摩六都科学館、東京、2018.3.11
- 「ヴォルフの論理学とバウムガルテンの美学における心理主義と自然主義——近世以降の論理学の歴史的展開に即して」、平成30年度第4回美学会東部会例会、上智大学四谷キャンパス、東京、2018.12.1
- 「弁論術的弁証術——ルネサンスにおける弁論術と弁証術の統合とその歴史的位置づけ」、シンポジウム「レトリックと哲学」での提題、上智哲学会第91回大会、上智大学四谷キャンパス、東京、2019.12.1
- 「世界創造と可能性の問題——世界創造説における可能的なものの形而上学的位置づけの変遷」、科学研究費基盤研究 (B) 「詩学的虚構論と複数世界論の交叉の系譜的研究」第5回研究集会、オンライン開催、2021.3.21
- 「虚構の形而上学的真理への基礎づけ——バウムガルテンの『美学』と『形而上学』」、日本哲学会第80回大会公募ワークショップ「バウムガルテンによる諸学の基礎づけ——形而上学から美学へ——」（オーガナイザー：増山浩人）、オンライン開催、2021.5.15
- 「批判期カントの構想力概念再考——心理学、超越論、天才論の系譜から」、日本フィヒテ協会第37回大会、オンライン開催、2021.11.14

- 「疫病と芸術」、公開シンポジウム・パネルディスカッションにディスカッサントとして参加、芸術関連学会連合第16回公開シンポジウム、オンライン開催、2022.6.11
- 「趣味と想像力」、「ファンダメンタルズ パーク 2022 夏 セミナー」、科学技術広報研究会（JACST）隣接領域と連携した広報事業部会、オンライン開催、2022.8.20
- 「ブルーメンベルクの美学——フィクショナルなものの存在論・創造論・形而上学的人間学」、2022年度第3回美学会東部会例会、上智大学四谷キャンパス、東京、2022.9.17
- 「弁論術と論理学——古代から近代科学の成立にかけて」、科学研究費基盤研究（C）「近代美学と古典弁論術——弁論術の崩壊と再構築」セミナー（近代美学と古典弁論術）、オンライン開催、2022.12.18
- 「バウムガルテンの「感性的判断（*judicium sensitivum*）」概念の系譜学——論理学・弁論術・心理学（靈魂論、認識能力論）の系譜に即して」、2023年度第3回美学会東部会例会、上智大学四谷キャンパス、東京、2023年9月16日
- 「シュライアマハー解釈学における自己移入、言語と思考、追構成（ディルタイとシュライアマハー：解釈学の観点から）」、ディルタイ協会大会、2023年12月2日
- 「文字と自己移入——読書論と解釈学の観点から」、17～19世紀ドイツ・フランス・イギリスの言語論と美学・オンライン研究会（主催：川野恵子）、2024年1月20日

(9) **口頭発表（その他）**

- 「ファンダメンタルズ バザール：20名のアーティストと科学者：交流の端緒の開示」、科学者と芸術家の対話のモデレーターとして参加、科学技術広報研究会（JACST）隣接領域と連携した広報事業部会（主催）、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構（Kavli IPMU）（共催）、日本科学未来館、東京、2021.6.6
- 「ファンダメンタルズ フェス mini：科学者・アーティストによるオンライントーク」、科学者と芸術家の対話のモデレーターとして参加、科学技術広報研究会（JACST）隣接領域と連携した広報事業部会（主催）、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構（Kavli IPMU）（共催）、オンライン開催、2022.3.21
- 「ファンダメンタルズ バザール—一般公開：科学者とアーティストとの対話」、科学者と芸術家の対話のモデレーターとして参加、科学技術広報研究会（JACST）隣接領域と連携した広報事業部会、オンライン開催、2022.8.6

(10) **受賞**

日本シェリング協会研究奨励賞（第10回、2014年度）

3. 主な社会活動

(1) **非常勤講師**

- 多摩美術大学美術学部（2013～2015年度）
- 国士舘大学文学部（2013～2016年度）
- 聖心女子大学文学部（2014～2018年度）
- 國學院大學文学部（2015年度）
- 日本大学文理学部（2015～2016年度、2018年度）
- 上智大学文学部・大学院文学研究科（2016年度、2024年度）
- 早稲田大学文学学術院（2019～2020年度、2023年度～現在）
- 慶應義塾大学文学部（2021年度～現在）

(2) **学会活動**

- 美学会
- 日本シェリング協会
- 日本18世紀学会
- 日本シュライアマハー協会
- 美学芸術学会
- 上智大学哲学会
- ガダマー協会